

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との見えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名  
(ユニット名)      グループホーム山田の里  
2F

所在地  
(県・市町村名)      鹿児島市

記入者名  
(管理者)              永田妙子

記入日                  平成 20年 2 月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はある。開設当初に、職員を含め全員で作った。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時にも唱和している。又、皆で理念の実践に向かって、日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内会加入時に、ホームの理念及び運営方針等を回覧板に載せていただいた。家族の方へは、入居時に説明して理解してもらえるようにした。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時等にも気軽に、声をかけてもらっている。		もう少し、隣近所の方々とお茶が飲めたり気軽に、立ち寄ってもらえるようにしていきたいと思う。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域の一員として行事等、地域活動にも参加している。		老人会等へも参加、出来るように配慮したいと思うが、日々の業務に追われているのが現状である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等への勉強会などは、まだおこなっていない。		老人会や町内会等の集まりにも今後、積極的に参加したいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価を生かして、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練や心肺蘇生訓練にも、地域の方や家族代表の方々も、参加していただいている。又、家族等からも意見をサービスに取り入れている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ市町村担当者の方々との交流はない。		今後、市町村担当者にも参加していただくようにし、サービスの向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修にも参加して、学ぶ機会を得た。今のところは、後見人が必要な方は入居していない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会等でも、話をしている。		今後、高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ちたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用者及び家族には話をして説明している。又、入院された時にも、不安を抱かれたりする時もあるので、その都度説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を設置している。利用者や家族の方々からは、その都度、意見、不満、苦情等は聞いている。又、サービスや運営に反映させている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の山田の里便りを出している。その中に、担当者、ケアマネジャーからのコメント等も記載している。体調不良時はその都度、電話報告している。金銭管理も面会時などに報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を設置している。又、口頭で意見や苦情を言われた事があるが、運営に反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会の機会を、毎月設けている。その時に意見及び提案を聞く機会を設けて、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況により、勤務体制は考えて勤務を作成している。例えば、外来受診時や家族会及び戸外レクリエーション時には、4名～5名体制で対応している。又、突発的な時にも柔軟な対応が出来るように、かねてより話し合いをしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員や管理者の移動及び離職を、必要最小限に抑えるように、努力をしている。職員がユニット毎の移動時でも、少しづつ馴染んでいただくように、時間をかけて配慮した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、勉強会を開催している。又、研修などへも参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームでの勉強会にも、管理者及びスタッフも参加できるようにしている。その為、ネットワークを活かして情報交換や相互訪問もおこなっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の親睦会やユニット毎の親睦会等をおこないストレスがないように取り組んでいる。又、個別に相談にも対応している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個々の努力や実践、及び勤務状況を把握している。又、長所等を見極めて、各自が向上心を持って働けるようにしている。その職員が得意とする分野は、伸ばすように努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時の面談から利用に至るまでに、本人様が困っている事や不安なこと、求めている事等は、本人自身から良く聴く時間を作り利用に至った。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の見学時から、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を良く聴いて利用に至った。		

鹿児島県 グループホーム山田の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時には、他の施設利用で自立した生活が困難な方や、退所を求められた方々が多かった。「その時」まず必要としていることは、即、サービス利用の方々が殆どであった。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>その方により、いきなりサービスではなく2～7日位ホームの生活に、馴染んでいただく期間もあった。その後、家族等と相談して利用となった方々もいる。</p>		
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員も入居者の方々と、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共に感じている。入居者の方々からも昔の生活等を教えられることも多い。お互いに支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族の方々とお互いの立場を超えた関係を築いている。ホームでの行事等にも参加していただき、一緒に入居者の方を支えていく関係を築いている。家族の方々の相談にも対応している。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の方々が仕事をされ、なかなか面会に来てくださらない方もいるが、ホームの行事等への参加の声かけをしたりしている。又、本人の希望により家族の方へ電話にて会話されたりもしている。面会に来られた時には、お茶、お菓子等を出したり、昼食時等には、一緒に食事を摂っていただくようにしている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の方やお友達の方が、面会に来てくださる。又、帰宅願望のある方等は自宅に行ったり、お孫さんが経営されている店に、昼食を食べに行ったりしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の関係性についての、情報交換等もおこなっている。お茶や食後の時間にその方が得意とする、折り紙作成、トランプ、歌、昔話等を、職員も一緒に聞いたり、歌ったりして過ごしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方々に対しても、家族からの継続的な相談にも対応している。退去された後に、次の施設で亡くなったと聞いた時には、最期の挨拶にも行くようにしている。(行った)		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々は、自宅で暮らしたいと思っている方が多い。家族の意向でホーム利用になった方が殆どであるが、遠方の故郷に帰りたいと言われる方の家族とは、話しをしているが実現はしていない。又、家族によっては、利用者と一定の距離をおきたいと言われる方もいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に前の施設に足を運び、ご本人やご家族、関係者等から聴き取るようにしている。又、利用後もご本人やご家族からもどんな生活をされていたかを聴いたりした。ご本人との日々の会話の中からも把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを、把握するように努めている。利用者のできることに、着眼点を置いている。食事、排泄、睡眠等はその方のリズムに合わせている。その方により、夜休まれる時間帯も様々である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時に、職員からは意見交換をおこなっている。又、利用者が自分らしく暮らす事が出来るように、本人や家族からも意見を聴いて介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直しをしている。状態が変化した時には、その都度、本人、家族の要望に応じて見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量等の記録はしていないが、利用者、職員が同じテーブルで食事やお茶を摂っているのを、把握している。食事量等が少なかった時には、申し送りノートに記録している。又、個々のケース記録にも記載している。個別記録やアセスメントを基に介護計画の見直し、評価実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関への受診や早期退院の支援、訪問歯科治療を受けながらの生活の継続をおこなっている。家族との外泊や外出の時等の情報交換をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるよう警察、消防、町内会、民生委員とも意見交換する機会を設けている。運営推進会議等に参加してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、訪問理美容サービスを受けている。その方によりパーマをかけたり髪を染めていただく方もいる。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、まだ地域包括支援センターの職員に参加してもらっていない。		今後、運営推進会議に、地域包括支援センターの職員の方にも参加していただくようにしたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用前からのかかりつけ医での、医療を受けられるようにしている。月1～2回通院介助をおこなっている。その結果等は、山田の里たよりや電話にて家族の方へは、報告している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設時より、地域の中の、認知症専門医に相談して協力を得ている。又、提携医療機関にも治療方針や助言をいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師とも、普段より気軽に相談出来る体制を確保している。常に、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなえるようにしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法や日常生活等の情報を詳細に医療機関へ提供している。又、時間の許す限り職員が見舞いに行っている。家族及び主治医とも情報交換しながら、速やかに退院支援に結びつけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化に伴う意思確認は、入居時や家族会等の時にも家族とは、話し合いの場を設けている。状態の変化があるときには、その都度家族の方には、説明して受診に同行していただいている。又、家族、主治医も交えて話し合いをおこなっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人及び家族の意向を踏まえ、主治医、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、面会時及び家族会等で意思確認しながら取り組んでいる。急変した場合には、すぐに対応して頂ける様に医療機関とも密に連携を図り、対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設等に移られた場合には、これまでのアセスメント、ケアプランや支援状況などを手渡すと共に、情報交換を行い職員が機会を作り訪問している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の人格を、尊重してプライバシーを大切に言葉かけや誘導をおこなっている。又、勉強会や職員会議の時にふれて話をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人にわかりやすい言葉かけをしている。又、職員は利用者とは過ごす時間を通して、希望、関心事、嗜好等も見極めそれを基に、日常生活の中に取り入れている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは持っているが、一人一人のペースをたもちながら過ごせるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人様の希望を取り入れて、お化粧品やアクセサリー等は自由にされている。又、定期的に訪問美容の方の支援を受け、パーマや髪染め及び好みのヘアスタイルにされている。朝の着替え時には、一人で出来ない方には、職員と一緒に考えようように心かけている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食の献立を紹介して、職員も同じテーブルで楽しく食べている。買い物や野菜の下ごしらえなどは手伝ってもらっている。季節の行事等の料理等は、利用者からもヒントをもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>1週間に1回は、夕食時に食前酒の日を設けている。お茶の時間や昼食後にはコーヒータイム等をとっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけをおこなっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日設定を行っているが、その時により拒否された場合等は時間をずらして入浴していただくようにしている。その方により午前中に入浴される方もいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕方から穏やかに安心した時間が、作れるようになるべく日中は、レクリエーション等の時間も取り入れて生活リズムを整えるようにしている。一人一人の状況に応じて休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ、洗濯物たたみ、下善等、出来る事得意とされている事は、お願いしている。その後は必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。戸外レクリエーションに、でかける等は利用者と相談しながらおこなっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かりホームで管理している方が多い。利用者の希望により職員と一緒に買い物を楽しまれている方もいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて散歩やスーパー等への買い物にも行っている。又、月1回は、家族の方々へも協力を得て外食に行ったりしている。外食会には家族の方も参加されている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「家に帰りたい」「故郷に帰ってみたい」等の利用者の思いがあった時には、職員の勤務調整を行い実現するようにしている。又、利用者の方が行きたいと思う場所への外出は個別ケアとして2ヶ月に1回位は、計画を立ておこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に利用者の希望に応じて電話をされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等は設けておらず、仕事帰りやご家族の都合の良い時間に、いつでも訊ねてきていただけるように配慮している。他の利用者に気兼ねなく殆どが、ご本人様の居室で過ごされる事が多い。その時には、必ず茶菓を出している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を、月1回実施して全職員が身体拘束についての勉強会を実施している。申し送り時等で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないようにしている。利用者の方が、外に行かれるような気配の時には、察知して一緒に散歩に出かけるなどしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で業務記録等の事務作業を行いながら、利用者の方々をさりげなく見守りを行なっている。夜間は居室が見渡せる場所で、利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	トイレや洗面所には、利用者の目につきにくいところに置くようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりハットを記録し、勉強会等の時にも取り上げて職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、家族等へも説明と報告をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施して全ての職員が対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練、消火訓練、避難経路の確認を、利用者及び家族の方も参加していただいております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人一人に起こりうるリスクについて、家族の方々にも説明している。又、その方に合わせて対応策等も、家族の方を交えて話し合っている。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から利用者の状況を把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時には、バイタルチェックを行い、変化の記録を個々のケース記録に記載している。状況により主治医に連絡して指示をもらったり医療受診をするようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報綴りを作成し、処方箋が新しくなった度に入れ替えている。服薬時には、本人に手渡し、きちんと服用できるかの確認をしている。受診時にも、主治医より説明を受け申し送りノート等でも職員全員に伝わるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や手作りのヨーグルトを採り入れている。散歩や家事活動、体操等からだを動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをおこない、利用者の力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなっている。就寝前は義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の1日の栄養摂取総量や水分量をだまかに把握している。利用者の嗜好を把握し、献立に採り入れるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルスの対策としては、ペーパータオルをしようする等し予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎晩、漂白している。布巾等はその都度洗濯している。冷蔵庫も点検や掃除をおこない、食材の鮮度や状態を確認し、冷凍したり早めに使うようにしている。調理器具、台所水回りも清潔に保つように職員で取り決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りには、植栽がしてあったり、プランターに利用者と一緒に植えた季節の花々で暖かい雰囲気になるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾りつけ等は、利用者と一緒におこなっている。季節の食材を採り入れた食事を出したり、季節感が味わえるように行事等にも工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、気の合った方々は他者の気配を感じながらも、楽しく過ごされるようにソファや椅子、テーブル等を囲んで話をされている。又、一人でも過ごされるスペースも確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは施設側で準備したものはあるが、本人が使い慣れた鏡台や椅子等を用意されている方もいる。本人様も居心地良く過ごされる工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差が無いように、温度計及び湿度計等を見ながら温度調整をおこなっている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。利用者の居室も随時、換気をおこない悪臭がないように工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に合わせて、トイレ、廊下、浴室等には手すりをつけて工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の出来る力を見出す事が出来るように工夫している。混乱や行動失敗が無いように、不安材料を取り除くように心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースには、プランターや鉢花等を置き利用者の方と一緒に水撒きなどが、できるように工夫している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



鹿児島県 グループホーム山田の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム山田の里では、利用者の方々の意見等も取り入れて季節の行事をおこなっている。毎月、ご家族の方にも参加して頂き、地域のレストランに外出に出掛けて楽しんでいる。又、隔月には個別ケアを計画し、その方が行きたい場所(墓参り、自宅、買物等)にも出掛けるようにしている。毎昼食後には、コーヒータイムを作り、利用者と職員がゆっくりと語り合う時間をもっている。時には、茶道をされていた方より、お点前を頂く時もある。